

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年1月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891600041		
法人名	社会福祉法人 木犀会		
事業所名	花水木	ユニット名	さくら
所在地	〒309-1717 茨城県笠間市旭町629-4		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0891600041-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年9月29日	評価機関 決 済 日	平成29年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの価値観やライフスタイルを尊重し、安心して豊かな生活が送れるよう支援すると共に、地域に親しまれる家庭的で温かいホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は栗畑に面しているほか、コンビニエンスストアの裏側に位置していることから、利用者は買い物兼ねて散歩に出かけるのが楽しみとなっている。
利用者は職員と一緒に近隣の田植えや稲刈りに参加したり、保育園児や小学校の児童クラブの生徒、歌やフラダンスなど様々な来訪者があり、地域との交流を盛んに行っている。
職員は常に利用者との関わりを大切に考えて笑顔で接し、職員同士のチームワークも優れていることから、家族等とも活発に意見交換をして運営に反映している。
協力医療機関と24時間連携体制がとれて看取り介護をしていることは、利用者や家族等の安心につながっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあいを大切に、家系的で温かいホームを事業所理念に掲げ、実践に繋がれるよう努めている。又、近隣の方々との交流をしていく中で、地域福祉に繋がれる事も視野に入れている。	管理者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、誰もが目にすることができるよう玄関や事務室に掲示している。 理念は日々の業務の中や昼礼時に確認し、共通認識のもとで実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の託児所や保育園・児童クラブ・地区行事や回覧回し等の交流やお店での買い物で施設の名前・職員の顔・利用者様の顔を覚えていただけている事や何気ない日常会話等が定着してきており、施設行事への招待・参加や避難訓練の参加協力にも繋がっている。	事業所は町内会に加入しており、利用者と職員で回覧板を届けながら近隣住民と挨拶を交している。 近隣で行われる田植えや稲刈りに、利用者と職員が参加しているほか、旭町祭りの見学に出かけている。 利用者は職員と一緒に近隣の田植えや稲刈りに参加したり、保育園児や小学校の児童クラブの生徒、歌やフラダンスなど様々な来訪者があり、地域との交流を盛んに行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	児童クラブの子供達との交流を通して、お年寄りの方や福祉への理解・興味を抱いていただけるような場として取り組んでいる。又、認知症啓発活動や相談等の依頼があればその都度実施したいと考えています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画を立て、市役所職員・民生委員・区長・町内代表・家族代表・利用者代表にて2ヶ月に1度で実施している。月毎の行事等の報告や行事・ボランティアの様子を見ていただいたり、事業所の課題等、様々な事を報告。会議で出た感想や意見等はサービスの質の向上に繋がれるようにしている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、老人会長、町内会長、区長、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 事業所からは行事や利用者の状況報告のほか、外部評価の結果などを報告し、参加者と意見交換をしている。 委員からの提案を受け、災害に備えてブルーシートを購入した。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員の方の運営推進会議への出席にて事業所の特性等の理解や市の担当(課)職員の方と相談等の連絡を密にし、又、ケアマネ会の加入を通し地域包括支援センターとも協力関係を密にできるよう努めている。	管理者は市の高齢福祉課や社会福祉課、地域包括支援センターを定期的に訪問し、利用者の要介護更新申請の情報を得たり、部屋の空き状況を報告して市担当者から入居希望者の見学申し込みなどを受けるなど、協力関係を築いている。 市主催の介護支援専門員の研修の案内があり、管理者が参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアのマニュアル作成。職員の意識が下がらない為に内部研修にて再認識し身体拘束を避けられるよう努めている。又、ヒヤリハットや事故報告書から上がる問題にも拘束に繋げない、最善の策で解決できるよう回覧だけで終わらせず、昼礼での報告にて職員一人ひとりに問題点に向き合っていただく体制を構築している。	「身体拘束をしないケア」のマニュアルをもとに、職員の認識を高めたり、お互いに注意し合いながら身体拘束をしないケアを実践しているが、マニュアルの中に言葉の拘束に関して記載するまでには至っておらず、職員の研修も行われていない。 現在、車いすでベルトを使用している利用者があり、家族等に説明して書面にて同意を得、定期的に解除に向けて職員間で話し合いを行っているが、経過観察記録や再検討記録に記載するまでには至っていない。	マニュアルの中に言葉の拘束についても追加し、定期的に内部研修を行って、全職員が正しく身体拘束を理解した上でケアを実践することを期待する。 やむを得ず身体拘束を行っている場合は、職員間で定期的に話し合い、身体拘束の方法の見直しや、解除に向けての検討事項を経過観察記録・再検討記録に残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアル作成。職員の意識が下がらぬよう内部研修(外部での研修がある場合には参加)にて学んでいただく。その際、管理職だけではなく、指導職や一般職員にも自身が講師になる事で更なる意識の向上に繋がれるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の年度計画の中に導入し、職員に理解していただけるよう努めたい。又、権利擁護を要する利用者様に対応が出来るよう、外部での研修に積極的に参加し、情報の更新を図り、迅速な対応ができるようにしていく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学等でも、おおまかな説明をさせていただき、その都度、疑問や質問等に応じている。契約時には、更に細かく、書類に目を通しながら一項目ずつ説明し、金銭面・医療連携面・サービス提供等、ご家族から理解を得られた上で交わしています。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて無記名アンケートを実施し、その結果も報告しています。又、各ユニットごとに意見箱を設置し、利用者様やご家族様の意見や要望をくみ上げていくと共に、運営推進会議で話しを出し運営に反映させるようにする。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりが、日々の支援や業務内容等について各会議や昼礼の中で自身の意見が話せるよう配慮した体制に努め、月のユニットカンファレンスにおいても出席できない職員はメモ書きや伝達を利用している。又、管理者・指導者は職員が気軽に話せる関係作りに努めている。	管理者は申し送りや月1回の職員会議時のほか、日頃から職員の意見や要望を聞くように努めている。職員の意見を受けるとともに、クラシックバレエ鑑賞に行くなど外出時間の幅を広げ、「夕方からの外出」や利用者の楽しみが増えたり、電気ポットや電気のスイッチに職員手作りのエコステッカーを貼ることで、事業所の節電につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的な事業所訪問を行い、現場の状況や問題点を見たり、聞いたりし改善に繋がるよう対応して下さっている。又、管理者は職員のストレスを少しでも軽減できるよう有給休暇や季節休暇の取得に配慮すると共に、仕事への不安やストレス等を傾聴し、働きやすい体制の構築に努めている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度計画を立て、役職ごとや職種ごとの研修を法人内で実施している。管理者は自身も含め、職員が可能な限り研修に参加する事で個々のスキルアップに繋がられるようにしていく。又、内部研修を充実させ、職員が講師となる事でも意識の向上やスキルアップに繋げていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の施設・事業所との連携は勿論の事、情報を共有する事でサービスの質の向上に繋げる。又、他施設・事業所とも営業活動を通し入居状況等を互いに把握し関係を密にしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちを汲み取り、寄り添いながら、言葉かけをし生活環境に慣れていただく。又、利用者様の思いや・要望に可能な限り応じていき、在宅で生活していたスタイルを残しながら、職員や利用者様とより良い信頼関係を築く事で安心感を得ていただけるようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にサービス内容を詳しく説明し、家族の意見や不安要素等にも耳を傾け連携を密にしている。又、ご家族様にも安心していただけるよう、実際の様子を見ていただいたり、可能な限り協力していただき施設利用する事を前向きに促していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様から在宅で生活されていた様子等を確認し、希望・思い・生きがいを大切にサービス提供に反映させていく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、野菜の切り方や洗濯のたたみ方・干し方等は個々の慣れたやり方で実施。迷ってしまう時は、話しを交えながら記憶を辿っていき、残存機能の維持に努めている。又、他利用者様同士が衝突しないよう職員が配慮し良好な生活環境を構築する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の広報紙と利用者様の様子を書いたお便りを毎月配布し、一ヶ月毎の日常生活の様子が分かるようにしている。又、最近の様子は電話(場合により)や面会時に詳しい報告を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の面会が途絶える事がないよう配慮し、時にはご家族様に話し利用者が寂しい思いをしないようにしていく。又、住んでいた地区やご自宅等、ご家族の協力を得ながら個別外出の機会を設けていく。	職員は入居時の聴き取りや日々の会話、申し送りノートなどから、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めており、友人との電話の取り次ぎや手紙の投函などを支援している。 利用者の友人や親戚が来訪した際にはお茶を出し、居心地よく過ごせるよう配慮している。 馴染みの理美容室や店での買い物、自宅への外出、外食、墓参りなどに家族等の協力を得ながら支援し、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットで区別せず、自由に行き来できる環境にしている。又、行事等の座席の配置にも配慮し、ユニットにこだわらず皆さんが色んな人と楽しく話しやレクリエーションができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への移動では、その後の様子等を伺いに足を運び、生活の様子や不安な事・体調等について傾聴しています。契約を終了された方のご家族へも不安な事や困っている事等をお聞きし、気持ちを楽にさせていただけるよう配慮している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との日常会話や表情等で本人の思いや意向の把握に努めると共に、些細な内容であってもケース記録に記入し、昼礼やカンファレンス等で情報の共有をし、利用者様の求めている事の実現に繋げていく。	管理者と職員は、利用者の表情や仕草、態度のほか、個人記録から一人ひとりの思いや希望の把握に努めるとともに、職員会議や責任者会議で共有している。 意思の表出が困難な利用者の場合は、家族等に話しを聴いたり、表情や仕草から思いや意向の把握に努め、把握した内容はケースファイルに記載して共有し、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査では、可能な限りご本人の馴染みの場所まで足を運び、そこから得られる情報を大切にしている。又、馴染みの物も可能な限り側に置ける環境にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や心身状態等について、ケース記録に細かく記録している。又、特記事項を中心に伝達し入退院などの状況把握にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットカンファレンスやモニタリングを実施し計画作成担当者が中心となり、利用者様・ご家族様の思いや職員の気付きを話し合い、より良いサービス計画の実現に繋げている。又、計画作成後は、ご家族様に確認、同意を頂いている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望を取り入れて、管理者や職員で話し合い、計画作成担当者が作成している。 家族等へは面会時や請求書送付時に報告して同意を得るとともに、毎月担当者会議で検討している。 短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に設定するとともに、利用者の心身の状態等に変化が生じた場合は、随時見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	課題サービス内容実施時の様子に目を向け、ご本人の反応を記録すると共に職員側で捉えた気持ちを記載している。又、特記事項は申し送り等を通し、サービス計画へ反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の協力を得ながら、希望とする病院の通院や突発的な外出の送迎等を可能な限り実施しています。又、入院時の物品補充や洗濯も実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の生活してきた環境知り、お料理・洗濯たたみ・お掃除・畑等をご本人の残存能力を活かしながら苦に感じる事がないよう実施している。又、町内の環境維持の為、事業所にて年に2回のクリーン作戦を利用者様と実施しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門(眼科・皮膚科・歯医者・耳鼻科・神経内科等)の病院受診は、通われていた所やご本人(またはご家族様)が望む病院へ受診している。又、提携している病院の往診と訪問看護ステーションによる定期訪問の連携体制を密にし、利用者様の健康管理に努めている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、確認を得ている。 かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、利用者の状況を提供しているが、家族等が付き添えない場合には職員が付き添い、結果は家族等に電話で報告している。 月2回協力医療機関の医師による訪問診療があるほか、週1回訪問看護ステーションの看護師による健康チェックを支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の医師や訪問看護の看護師に連絡し、早期発見や迅速な対応を心がけている。同時に、管理者・ケアマネージャー・家族に報告・相談をし遅れがないように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様が入院時の洗濯や物品補充が難しい時は、職員が代行し定期的に行っている。又、ご家族が実施している時でも、お見舞いに伺い、担当の看護師の方に直接状況を聞いたりしています。病院側との連絡を密にし、退院後に本人・ご家族様が不安にならないよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に、重度化や看取りの対応指針を契約時に説明すると共に同意を得ているが、ご家族によっては迷われる方もいる為、体調の変化に応じて、その都度、確認・説明を実施している。職員の看取りに対する思いや不安に思う事を含め、内部研修を実施。ターミナルケアを終えた後も、振り返る事で次に繋がられるようにしている。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期、看取り介護について説明し、書面にて同意を得ている。 事業所では看取り介護を行うとし、「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」と「終末期における看取り介護マニュアル」を整備し、現在は内部研修に向けて職員が何に対して不安を感じているか、アンケートを実施しているところである。	利用者や家族等、全職員が、重度化や終末期を不安なく迎えられるよう、内部研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の更新(講習の参加)を推進し、外部研修にも参加するようにしている。内部研修のひとつとして年度計画の中に取り入れる事で意識の低下を防ぐようにしていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防署立会いの避難訓練を実施。近隣の方への参加依頼にて少人数ではあるが参加協力を得られた。災害に対しては、必要な物品や食料の確保をしている。又、地区の消防団との避難訓練を予定としている。	夜間や地震想定を含む避難訓練を年2回実施し、反省会を行って課題について話し合うとともに、訓練の記録を作成している。 災害に備えて米や飲料水、食料品、懐中電灯、おむつ類、衛生用品、ブランケット、卓上コンロとカセットガス等を備蓄し、一覧表により管理している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもった対応、接遇マナーを徹底するようにしている。声量・口調にも気をつけ、心からのおもてなしの実現に繋げるようにしている。排泄への配慮や否定的な言動等、職員互いに注意し合える関係の構築に努めている。	個人情報の取り扱いについては、契約時に家族等から書面にて同意を得ているが、職員でプライバシー保護に関する研修を行うまでには行っていない。 個人情報に関する書類は、施錠できる書棚に保管し、取り扱いに注意している。	個人情報保護に関する内部研修を行い、全職員で共有することを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えを受け止め、無理強いをしないように温かい気持ちで支援し、混乱しないように選ぶことができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりに合わせて、生活支援・家事支援を行っている。気分や体調に応じて調整・変更をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でタンスから洋服を自由に出し入れする事が難しい方に関しては、職員が代わりに引き出しを開けて洋服が見えるように対応し、その日の気分に応じて選ぶ事ができるよう配慮している。又、美容室や髪飾り・化粧品等もご本人の希望に応じて都度対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を使用し、季節感や家庭らしさが味わえるようなメニューの提供を心掛けています。又、調理の際も、利用者様を交えて実施しています。季節の食材が届いた際は、利用者様とどのような料理にして食べるか話をしながら献立の中に取り入れています。	宅配業者の献立により食材が届き、職員が自家菜園で採れた茄子やきゅうりなどを加えて調理している。 利用者はできる範囲で野菜の皮むきやテーブル拭き、下膳、食器拭きなどの役割をになっており、職員は食事介助や談笑しながら利用者と一緒に食事を摂っている。 おせちや雛まつり、クリスマス会などの行事食を提供するほか、家族等の協力を得て年2回程外食を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の健康状態に応じて(主治医の指示)水分量や糖類・塩分等のコントロールを実施しています。ご本人の意向が強い場合や、ご家族からの希望・利用者様の状態に応じた食事形態や補助食品の導入等の個別の対応は実施しています。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアの実施とポリデントによる義歯の洗浄を実施し、残存歯の維持を推進している。利用者様に合わせて、歯間ブラシや歯磨きティッシュの使用もしています。又、口腔ケアの重要性を職員にも理解していただけるよう歯科医院の協力の元、内部研修を予定としている。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、利用者様一人ひとりに合わせた対応をしている。可能な限りトイレでの排泄を目指し、ご本人が不快にならないよう配慮した支援を心掛けている。	職員は利用者一人ひとりの排泄サインを把握するとともに、排泄チェック表を活用し、本人に合わせたトイレ誘導を行っている。 入居時に紙おむつを使用していた利用者が、布パンツに改善されるなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	既往歴を含め排便間隔を知り、必要に応じて主治医に相談し下剤等の使用をするも、可能な限り自然排便を目指し、個別で食品の導入をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回～入浴できるようチェック表で管理しているが、体調や状況に応じて柔軟な対応を心掛けている。又、入浴剤や菖蒲湯・柚子湯のお風呂や、入浴以外の日の清拭や冬場の足浴を実施し、清潔保持に努めている。	入浴は週2回午後を基本としている。現在は入浴を拒む利用者はいないが、入浴を拒む利用者には強要はせず、職員や時間帯を変えたり、清拭や足浴などで対応することとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意向に沿って、居室・ベット・座椅子等その都度休息がきちんとできるよう温度にも配慮し対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員が薬のジョイントを行うが、誰もが服薬状況を理解し支援していただく為、伝達を徹底している。又、提携している薬剤師に副作用や注意点など不安に感じた事は聞けるような体制となっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意分野を活かせるよう、個々に合った支援を見つけている。又、利用者様への感謝の心は忘れず、必ず言葉と態度で伝えるようにしており、利用者様の自信に繋がられるようにしていきたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームセンターやドラッグストア・スーパー・コンビニエンスストア・和菓子屋・衣料品店等に出かける機会が増え、自身の買い物を楽しんでいます。又、夕方の時間の外出も実施し、可能な限り希望に添った支援に努めている。	天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩し、近隣住民と挨拶を交している。 職員が同行して買い物に行ったり、年間行事計画を立てて家族等の協力を得ながら、車いすの利用者も一緒に年2回花見や紅葉を観に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品は管理者が保管していますが、保管場所は利用者様にお伝えし、不安にならないよう(安心していただけるよう日頃から信頼関係を築いていくようにしている)に支援しています。外出先で支払う際には、お財布をご本人にお渡し直接支払いもしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いたり、手紙が届いた際はホームの電話にて連絡をし、話しをしたりしています。又、年賀状においても年賀状を買いに行く所からお手伝いさせていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって窓から見える景色が変わり、室内に居ても季節を感じていただいているようです。又ユニット内のレイアウトも利用者様と交流してる方々と一緒に制作した物を掲示したり、外出先での写真を掲載する事で話題になることもあります。	玄関には観葉植物と障害者施設の利用者が制作した小袋などが、さりげなく飾られている。 事務室の窓が玄関に面していることから、利用者が外に出る時はすぐに対応できるようになっている。 廊下の掲示板に行事の写真を貼ったり、居間兼食堂には利用者や職員で制作した折り紙作品を飾っている。 ユニットからユニットへは自由に行き来ができ、開放的な環境となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームの他、玄関先にベンチがある為、自由に行き来していただいております。気の合う利用者様同士で互いの居室へ招き、思い思いに過ごしていただいております。又、一人の時間が阻害されないよう職員は配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活用品の持ち込み制限はなく、ご家族様と相談しながら自身が安心するお部屋作りをしています。	居室にはエアコンやレンタルベッド、カーテン、クローゼットが備え付けられている。 管理者は使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明しており、使い慣れた寝具類や衣装ケース、テレビ、筆筒、目覚まし時計、家族の写真、手作り作品、位牌、ぬいぐるみなどを持ち込んで、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同空間では廊下をはじめ、手すりを設置。利用者様一人ひとりに応じて、リビングルームでの利用者様の移動やテーブル配置等、事故に繋がらないよう目を配っている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 花水木

作成日 平成29年3月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束についての勉強会実施(内部研修)と経過観察記録や再検討記録の実施。	年間スケジュール(研修等)を作成し、確実にしていく。	内部研修にて身体拘束についての勉強会を実施し、理解を深めると共に意識付けを徹底していく。又、やむを得ず実施してしまっている事に関しては、経過事項を経過観察記録・再検討記録に残していく事で解除へ繋げていく。	1年間
2	33	職員への研修の実施。	年間スケジュール(研修等)を作成し、確実にしていく。	内部研修の実施と、外部への研修にも可能な限り参加し、職員全体で情報共有し意識を高めていく。	1年間
3	36	職員への研修の実施。	年間スケジュール(研修等)を作成し、確実にしていく。	内部研修の実施と、外部への研修にも可能な限り参加し、職員全体で情報共有し意識を高めていく。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。